

優良な協働事業の紹介

ばあばの知恵袋さくらが実施する地域を元気にする様々な活動を紹介します！



できることを
できるひとが
できるぶんだけ



～ばあばの知恵袋さくらが実施する様々な地域を元気にする活動～

都城市にあるばあばの知恵袋さくらは、地域の方々と協力しながら食のイベントや地域食堂、健康マージャンなど地域を元気にする様々な活動を実施しています。

ばあばの知恵袋さくらの末永陽子さんにお話を伺いましたので、優良な協働事例として紹介します。



終日・日帰りバスツアー
遊ばんね!みやこ
 5,200円
 2013年12月8日
 9:10~18:20
 集合/9:05 (郡城駅)
 ご参考/J戸宮崎駅 8:15発~ 郡城駅 9:04着

「おこしと一橋にクリスマスリースとピザをつくろう!」
 5,200円
 2014年2月16日
 9:10~16:20
 集合/9:05 (郡城駅)
 ご参考/J戸宮崎駅 8:15発~ 郡城駅 9:04着

終日・日帰りバスツアー
遊ばんね!みやこ
 5,200円
 2014年1月26日
 9:10~16:20
 集合/9:05 (郡城駅)
 ご参考/J戸宮崎駅 8:15発~ 郡城駅 9:04着

「ばあばの知恵袋さくら」
 ばあばの知恵袋さくらとは、都城市石山地区に住む近所の女性同士が集まる場として平成17年に活動を初めた任意団体。グリーンツーリズムの資格を活かして、田舎遊びや地域づくりの活動を行っている。現在は、「出来ることを出来る人が出来る分だけ」を合い言葉に、地域の困りごと解決のための活動や地域を盛り上げる活動を行っており、ばあばの知恵袋さくらを中心に様々な地域ネットワークが形成されています。



ばあばの知恵袋さくらとは

都城市石山地区に住む近所の女性同士が集まる場として平成17年に活動を初めた任意団体。グリーンツーリズムの資格を活かして、田舎遊びや地域づくりの活動を行っている。現在は、「出来ることを出来る人が出来る分だけ」を合い言葉に、地域の困りごと解決のための活動や地域を盛り上げる活動を行っており、ばあばの知恵袋さくらを中心に様々な地域ネットワークが形成されています。

優良な協働事業の紹介

ばあばの知恵袋さくらが実施する地域を元気にする様々な活動を紹介します！

ばあばの知恵袋さくらが実施する事業例

①みやこんじょマリアージュの開催

都城市中心部の飲食店街牟田町を盛り上げるため、ばあばと牟田町で飲食業を経営する経営者が協働して、都城の焼酎に合う料理のイベントをスタートさせた。飲食店毎に都城市で製造される様々な焼酎に合う肴を提案し、参加者投票により順位を決める。このイベントが盛り上がりを見せ、地元の精肉店や酒造メーカーがスポンサーとなるなど、地域全体を盛り上げる活動に繋がっている。近年では、参加者が集まりすぎて1回の開催で受け入れきれず、2回に分けるほど、回を重ねる毎に関わる人が増えている。令和2年度はコロナ禍で開催ができなくなったため、都城市でかつて製造されていた寒天を活かしたレシピづくりを行うなど、人が集まれない中でも地域おこしを実践している。



②子ども・地域食堂とフードパントリー

ばあばの知恵袋さくらを中心に、民間団体の協力を得て都城地区の子ども・地域食堂のネットワークを形成しており、地域の精肉加工業者や農家など近隣の方から寄附していただいた食品をネットワーク内で振り分けて、地域での支援に繋げている。さらに、困っている世帯に継続的な支援を行うため、フードパントリーも実施している。このフードパントリーでは、食堂で使いづらい缶詰やインスタント食品、食堂の開催日と合わないタイミングで寄附していただいた野菜などを活用し、事業を運営している。子ども食堂では、どうしても寄附していただく物品に偏りが発生してしまうが、協働することで食品ロスが出にくい仕組みをつくっている。

ばあばの知恵袋さくら運営する地域食堂「ばあばのお勝手」では、食堂を子どもに限定せず、地域の高齢者や、共働き世帯など（食堂が必要な方なら）誰でも利用できる仕組みにしている。そうすることで、地域の方が集まれる場が生まれている。また、その場に來られない高齢者の方には、その近隣の方がついでに持って帰って宅配をしてくれており、自然と地域の方々が繋がり合う起点となっている。

施設名	住所	電話番号	備考
ばあばのお勝手	都城市高城町石山1509-9	0996-58-4838	親子約
ひんりん食堂	三好市高城町石山1509-9	0996-58-4838	親子約
わたまちこども食堂	都城市19-13 西友ビル1F 2階	0986-23-9093	
地域食堂 おひさま広場 (横市)	都城市幸徳町27-2	090-6422-1101	
おひさま広場	三好市11番-135	0883-6411-8441	親子約
じゅうじ屋	都城市五十町2283-7 中興会公民館	0986-45-2140	親子約
paso a paso	都城市下島津町581-4	070-8434-7273	親子約
イトロドリ	都城市下島津町559-5	0986-70-0190	親子約

都城における食を愛した子どもと高齢者の居場所である「子ども・地域食堂」
 豆上げの輪や、実業団体の輪、ボランティア、子供、高齢者、人権や食料のボランティア等の活動を通じて、各エリアでの居場所の輪を広げていくことを目指しています。

③健康マージャン

末永さんの夫、忠雄さんは地域の高齢者の認知症予防のため、週に1回マージャン教室を開いている。以前から参加されていた方が、交通事故を機に家族から運転をやめるように言われ、外出する機会が減ったので、今では忠雄さんが迎えに行き、週一回その方のためにマージャン教室をしている。結果としては、その方のデイサービスのようになっている。ばあばの知恵袋さくらでは、このように、地域の困り事に対して、提供できるモノと関われる人でできることを考え、様々な取組を実施している。なおこの健康マージャンは、認知症予防程度のレベルなので、あまり強い方が来られると困るものの、マージャンが出来る人を募集しているとのこと。



優良な協働事業の紹介

ばあばの知恵袋さくらが実施する地域を元気にする様々な活動を紹介します！

協働についてのインタビュー（末永氏）

①協働する上で苦勞した点と気をつけた点

苦勞した点はあまりない。というのも、関わる人がそれぞれの得意分野でやっているから、そこまで苦勞を感じることはない。

気をつけていることは、自分が居なくなっても出来るように、自分だけでやらないことと、何事もきっちりやりすぎないこと。また、一番大事なものは、自分たちに出来ることで自分たちが楽しいと思えることしかないということ。



②ネットワークの作り方

地域の中には、ちょっとボランティアしたいとか、どこでボランティアすればいいかわからないという人が少なからずいる。そういう人たちに、ここに来れば何かできることがあると思ってもらえるような場があるのが大事だと思う。そのような場で楽しく何かをしていたら少しずつ仲間が集まってくる。仲間を少しずつ広げていく中で、地域に困り事があればそこで出来ることを考えてやっている。



③協働について（全般）

大きなことををするのではなく手が届く範囲で無理なく活動することが良いと思う。最初から大きな事をことを考えずに、自分の周りの何人かのためにスタートするといいとアドバイスしている。そのうち手伝ってくれる人が増えるから小さく始める。できる人ができることをできるぶんだけ。関わるみんなが少しずつWinWinになればいい。何より自分たちが楽しいと思える活動をするのが何より重要だと思う。

それとかたつむりの歩み。止まらないで少しずつでも進み続ければ結構進む。失敗も小さくて済む。無理はしない。楽しいことしかないし、嫌なことはしない。この先短いから嫌な人とつきあわない（笑）。それでちょっとずつ地域にお返しできればいい。

～自然と協働が生まれている～

取材担当者の感想としては、末永さんはすごく自然体で、自分が楽しむことで末永さん中心に協働が自然と生まれており、地域づくりのロールモデルとなり得るようになって感じました。「無理をしない」、「楽しむ」というキーワードは協働での取組を進める上で非常に重要なポイントだと感じました。

